

たんぽぽのとりくみ

医療・リハビリとの連携

たんぽぽは多様な疾患のあるお子様が集団生活を送る場です。お子様1人1人の疾患を把握し、医療情報・発達状況に合わせた課題を、看護師・保育士・児童指導員・リハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）等で共有し、各部門が連携して療育を行います。

健康・生活

主治医から医療情報の提供を受け、必要な医療的ケアを行いながら体調を管理し、生活リズムの確立を支援します。リハビリスタッフとも情報共有を図ります。また、言語聴覚士、栄養士が食についてのケアも支援します。



運動・感覚

身体機能を把握し、その子に適したポジショニングや活動を提供します。その中で様々な運動や感覚等の発達を促します。

因果関係のある遊びを体験し表出を促す活動や、自分の身体を知り無理なく活動に取り組む経験を促します。



人間関係・社会性

受容的な関りを通じて、お子様が安心して集団生活を送れるよう支援します。また自分の気持ちに気づき、安心して自分の気持ちを表出できるよう促します。お友達との活動を通して、集団生活に必要なルール等を経験できるよう取り組みます。

言語・コミュニケーション

集団活動を通して豊かな感情を育み、「伝えたい」という気持ちを育てます。表情・発声・体の動き・言葉など様々な手段で表出できるよう促します。

認知・行動

お子様それぞれの発達を考慮しつつ、年齢や学年に合わせた役割を経験できるよう促します。また、自分自身の成長を感じ、達成感を得られるような支援をします。

